

<原著>

米国のレクリエーション支援者養成課程認定及び資格認定からみる
レクリエーション支援者としての資質・能力・技術

永田真一 松尾哲矢 田中伸彦 篠原俊明
谷口勇一 村本宗太郎 清水一巳
ライター・カトリン・ユミコ 後藤剛彦

**Essential Qualities, Abilities, and Skills for Recreation Professionals:
Review of Accreditation and Certification Standards in the United States**

Shinichi Nagata, Tetsuya Matsuo, Nobuhiko Tanaka, Toshiaki Shinohara
Yuichi Taniguchi, Sotaro Muramoto, Kazumi Shimizu,
Katrin Jumiko Leitner and Takehiko Goto

レジャー・レクリエーション研究 第96号

令和4年3月

日本レジャー・レクリエーション学会

<原著>

米国のレクリエーション支援者養成課程認定及び資格認定からみる
レクリエーション支援者としての資質・能力・技術

永田真一¹ 松尾哲矢² 田中伸彦³ 篠原俊明^{4,5}
谷口勇一⁶ 村本宗太郎⁷ 清水一巳⁸
ライター・カトリン・ユミコ² 後藤剛彦⁹

**Essential Qualities, Abilities, and Skills for Recreation Professionals:
Review of Accreditation and Certification Standards in the United States**

Shinichi Nagata¹, Tetsuya Matsuo², Nobuhiko Tanaka³, Toshiaki Shinohara^{4,5}
Yuichi Taniguchi⁶, Sotaro Muramoto⁷, Kazumi Shimizu⁸,
Katrin Jumiko Leitner² and Takehiko Goto⁹

Abstract

The current study aimed to clarify essential qualities, abilities, and skills for recreation professionals in the United States, based on accreditation standards for degree programs at universities and requirements for professional certifications. Researchers reviewed documents on accreditation and certification standards that were published by academic accreditation organizations including COAPRT, which is under National Parks and Recreation Association (NRPA), and CARTE, which is under American Therapeutic Recreation Association (ATRA), as well as certifying bodies of professional certifications including CPRP and CTRS. Researchers also conducted a case study of an accredited program at Northwest Missouri State University. Supplementally, brief interviews were conducted with the chairman of an accreditation body and a university professor at an accredited program. It is found that COAPRT provided learning outcomes that outline the general competences of the recreation program graduates, while CARTE provided detailed educational contents. Many competence contents of CPRP were on administration and management, while CTRS focused more on skills and techniques to provide effective programs. The characteristics and tendencies of accreditation and qualification standards were summarized, and issues in Japanese recreational professional certifications were discussed.

-
- 1 筑波大学 University of Tsukuba
 - 2 立教大学 Rikkyo University
 - 3 東海大学 Tokai University
 - 4 共栄大学 Kyohei University
 - 5 日本体育大学大学院博士後期課程 Doctoral Degree Program, Nippon Sport Science University
 - 6 大分大学 Oita University
 - 7 常葉大学 Tokoha University
 - 8 千葉敬愛短期大学 Chiba Keiai Junior College
 - 9 公益財団法人 日本レクリエーション協会 National Recreation Association of Japan

1. はじめに

21世紀に入ってから、日本における高等教育において、専門職を育成するカリキュラムの具体性、つまり該当知識・技術をどの程度習得するかを明確にする動きが活発化した。

例えば、2001年には、工学・農学・理学系の学科あるいは学科内のコースを対象に、大学教育と技術士国家資格との連携を緊密にすることを念頭に、技術者教育認定の世界的枠組みであるワシントン協定などの考えに準拠し、国際的に通用することを保証する技術者教育認定高等教育プログラム、JABEEプログラム¹⁾が一般社団法人日本技術者教育認定機構のもとで開始された。同じく2001年には、厚生労働省の「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」から、「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－」の別冊として医学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン²⁾が提示され、2016年の改訂版²⁾に引き継がれ、歯学教育については2017年に微細な用語修正が行われている³⁾。そして、スポーツ教育の分野では、スポーツ指導者に求められる資質能力を大学教育の中に導入することを目的に、2016年に、公益財団法人日本体育協会（現：公益財団法人日本スポーツ協会）のスポーツコーチのモデル・コア・カリキュラム⁴⁾が策定されている。

上記のとおり、高等教育の各分野において専門カリキュラムの構築が検討されている中、日本におけるレクリエーション支援者養成に関しても、約70年前から公益財団法人日本レクリエーション協会を中心とした公認指導者資格制度が実施されている。そして現状では、基礎資格としてレクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、専門資格としてレクリエーション・コーディネーターや福祉レクリエーション・ワーカーという資格が存在する。さらに、高等教育機関でレクリエーション公認指導者資格養成を導入する仕組みとして、課程認定校の制度が存在する。2021年5月現在、日本では約6万人の公認指導者が全国で活躍⁵⁾し、高等教育機関として216校の課程認定校（大学・短大・専門学校）が存在している⁶⁾。しかしながら、日本のレ

クリエーション専門職の教育体系においては、JABEEや医歯学教育、スポーツコーチにみられるような、高等教育におけるモデル・コア・カリキュラムや専門教育評価制度などを明確化させる仕組みは未だ十分に確立されているとは言い難い。

一方、国外に目を向けると、例えば米国では日本に先行して大学レクリエーション科の課程認定校制度やレクリエーション専門家としての資格を作り、そのカリキュラム改革も行われている。高橋・今村⁷⁾が報告しているとおおり、レクリエーション専門家養成の歴史及びレクリエーション専門家養成課程認定校制度を司る団体である Council on Accreditation of Parks, Recreation, Tourism and Related Professions（以下：COAPRT）の公開している歴史によると、米国では1974年からカリキュラムの明確化に関する議論が起こっている。つまり、2020年までに46年もの歴史的蓄積があることになる。高橋・今村によれば1988年10月時点では認定校80校が報告されていたとしており⁷⁾、COAPRTによる現在の情報では2020年9月時点でも72校が報告されている⁸⁾。これは、課程認定制度が半世紀近くを経て未だに力強くその地位を保っている表れであると考えられる。また、米国では高等教育におけるレクリエーションの学位及び資格の価値が確立していることも特徴的である。例えば、レクリエーションの学位取得者や資格取得者は、市立・州立・国立の公園・レクリエーション施設や自然環境保全団体、リハビリテーションセンター、高齢者施設、デイケアセンター、野外活動・キャンププログラム、地域活動センター、YMCA、フィットネスセンター、イベントプランニング会社、リゾート会社、ゴルフ産業、等の幅広い業種に就職する際、優位に立つことができる⁹⁾。

そこで、本研究では、米国の大学レクリエーション科の課程認定校制度及びレクリエーション専門家資格制度におけるカリキュラムに着目し、各カリキュラムの構造と内容に関して、レクリエーション支援者の資質・能力・技術という点から比較分析し、その特徴と傾向について明らかにするとともに日本のレクリエーション支援者養成の課題について検討することを目的とする。

2. 方法

(1) 調査1：資料分析及び補足的インタビュー調査

本調査は、レクリエーション専門家養成の課程認定団体 (COAPRT¹⁰、Committee on Accreditation of Recreation Therapy Education (以下：CARTE)¹¹)、レクリエーション専門家の資格 (Certified Parks and Recreation Professional (以下：CPRP)¹²、Certified Therapeutic Recreation Specialist (以下：CTRS)¹³) を対象として、各資格制度において公開されている資料分析を行った。調査時期は、2020年7月～12月である。また、インタビュー調査に関しては、補足的資料の確認等、資料分析を補足する目的で COAPRT の委員長、Sydney Sklar 博士を対象として実施した。調査時期は2020年10月である。

(2) 調査2：事例調査及び補足的インタビュー調査

本調査は、事例調査として Northwest Missouri State University を対象に実施した。選定理由は当大学が COAPRT によるレクリエーション専門家課程認定校であることに加え、レクリエーション及びセラピューティックレクリエーションの入門書であり、全米で幅広く使われている教科書 Introduction to Recreation and Leisure¹⁴ と Foundation of Therapeutic Recreation¹⁵ の編集者である Tylor Tapps 博士と Terry Long 博士が在籍していることであった。調査方法としては、当大学よりカリキュラムの内容についてコア科目のシラバスを入手し、分析を進めた。調査時期は、2020年7月～12月である。また、インタビュー調査については、内容分析を補足する目的で本カリキュラムを運営している教員のリーダーである Susan Myllykangas 博士を対象として実施した。調査時期は、2020年9月である。

3. 米国におけるレクリエーション専門家養成にかかる団体

現在、米国におけるレクリエーション専門家養成課程の課程認定校制度は COAPRT と CARTE という団体が運営母体となっている。全米公園・レクリエーション協会 (NRPA) が母体である COAPRT はレクリエーション一般の学位プログラム、全米セラピューティックレクリエーション協会 (American Therapeutic Recreation Association:

以下 ATRA) が母体の CARTE はセラピューティックレクリエーションに特化した学位プログラムの認定をしている。日本におけるレクリエーション専門家養成課程は福祉レクリエーション・ワーカーを含め日本レクリエーション協会による一元化がされているが、米国ではそれぞれの団体が管理・運営している (図1参照)。

公園・レクリエーション一般とセラピューティックレクリエーションの分裂は、歴史的な背景が影響していると考えられる。Dieser¹⁶によると、セラピューティックレクリエーションは他の公園・レクリエーション専門家とは別の起源があったが、1965年にそれらの団体が NRPA として統合されたという。その後しばらくは NRPA がセラピューティックレクリエーションを含むすべての公園・レクリエーション領域を管轄していたが、セラピューティックレクリエーションの一部のグループが NRPA の方針に合意ができず、1984年に NRPA を離脱し、ATRA を設立した。このような背景の中、セラピューティックレクリエーションを含むレクリエーション専門家の課程認定は近年まで COAPRT が唯一の団体として執り行ってきたが、他の医療従事者と対等な課程でレクリエーションセラピストを養成すべきであるとして、2010年にセラピューティックレクリエーションに特化した課程認定として、ATRA の傘下に CARTE を設置することとなった。現在も、COAPRT はセラピューティックレクリエーションの課程を含む公園・レクリエーション専門家一般の課程を認定している。このような歴史的背景が、公園・レクリエーション一般とセラピューティックレクリエーションの二つの課程認定団体が存在する背景である。

レクリエーション支援者の資格については CPRP や CTRS がある。Van der Smissen¹⁷によると、CPRP は NRPA の傘下である National Certification Board と呼ばれる組織によって管理・運営されている資格で、公園・レクリエーションの管理運営に関する知識・技能を証明する証である。CTRS は National Council for Therapeutic Recreation Certification (以下、NCTRC) という団体が管理・運営するセラピューティックレクリエーションの資格であり、レクリエーションセラピストとして



図1 米国のレクリエーション支援者養成課程認定・資格認定に関わる団体

の知識・技能を証明する証である。NCTRCは1981年に設立された後、セラピューティックレクリエーションの資格として国際的に認められている団体であるが、それは資格認定団体としての質を保証する団体である Institute for Credentialing Excellence や National Commission for Certifying Agencies の認定を受けている¹⁸⁾ ことに加え、セラピューティックレクリエーションのサービスを受ける者の保護を第一目的とし、レクリエーションセラピストに必要な知識・技能を定期的に調べ、Job Analysis 報告¹⁹⁾ として発表していることが関係していると思われる。

4. 米国におけるレクリエーション支援者養成カリキュラムの内容

ここでは、課程認定団体及び資格、つまりCOAPRT、CPRP、CARTE、CTRSに関する資料分析（調査1）に基づき、レクリエーション支援者としての資質及び能力・技術について比較・検討する。

(1) COAPRTにおけるレクリエーション支援者の資質・能力・技術

COAPRTが公開しているCOAPRT Standards: 7.0 series (learner outcomes)⁸⁾ において、レクリエーション支援者の資質・能力・技術に関する記述がある。以下、表1にその日本語訳を示す。

表1 COAPRT スタンダードの日本語訳

項目番号	学習アウトカム
7.01	基礎知識 – a) 公園・レク・ツーリズム等産業の特徴 b) これらの産業において使用されている技術及びプロセス; c) 専門職としての歴史、科学、哲学
7.02	サービス提供技術・多様性及び文化背景を鑑み、心地よい経験を促進するプログラムの企画、実行、評価
7.03	マネジメント – 運営及び戦略的マネジメント
7.04	インターンシップ – 習得した知識と技術を統合する

COAPRT で示されているスタンダードは非常に広く設定されているように見える。COAPRT 委員長 Sydney Sklar 博士へのインタビュー調査から得た情報によれば、これは近年のトレンドである「学習アウトカム」に基づいたスタンダードであるからだという。10年程度前までは、「コンテンツ基準」のスタンダードが定められていた。コンテンツ、つまり教育内容を基にしたスタンダードは教育内容を細かく定めるといった性質があるが、コンテンツ基準のスタンダードでカリキュラムを認定するという事は、「レクリエーション支援者として教えるべきことが決まっていて、それを確実に教えているか」といういわゆる処方的な方法であった。補足すると、セラピューティックレクリエーション課程を認定するCARTEはコンテンツ基準のスタンダードが定められている。

コンテンツ基準のスタンダードの不利な点は教育内容は認定できるが、学習者が確かに知識・技術を身に着けているかが不明である点であった。そのため COAPRT は 2013 年より、本報告書で示した学習アウトカムに基づいたスタンダードを設立し運用し始めたという。

COAPRT で定められているスタンダードにおいては大学におけるレクリエーション専門家養成教育の広いアウトカムとしてのターゲットを示しているのみであるが、大学におけるレクリエーション専門家養成において他のガイドラインがないというわけではない。例えば次に述べる CPRP 資格における内容にはレクリエーション専門職において成功できるような資質・能力・技術に関して非常に細かい内容を定めている。

(2) CPRP におけるレクリエーション支援者の資質・能力・技術

NRPA が CPRP の資格に関して公開している資料からレクリエーション支援者の資質・能力・技術に関する記述を調査・分析した。それによると、①コミュニケーション、②ファイナンス、③人事、④運営、⑤プログラミングの 5 つの習得すべき大項目が示されていた²⁰⁾。ファイナンス、人事、運営に関しては CPRP が謳っている米国のレクリエーションマネジメントの仕事に直結する知識・スキルであると思われる。現行、日本におけるレクリエーション支援者の資格は現場でのレクリエーションを執り行うスキルに重点がおかれている。その点を踏まえ、ここではコミュニケーションとプログラミングの大項目に焦点を絞って検討する（表 2 参照）。

コミュニケーションの項目においては、レクリエーション・公園の価値や有益な効果について理解し、他者つまりスタッフ、一般利用者、ステークホルダー、政治家等を教育することができる能力が求められる。また、ニーズアセスメント等によって各施設における利用規則等へのインプットを求める能力も必要である。そして、外部団体との協力体制を作るという能力にも注目されている。また、プログラミングの項目においては対象者に合わせたレクリエーション支援活動の開発や、そのために必要なアセスメントの実施能力、

表 2 CPRP 資格で指定されているレクリエーション支援者に求められる資質・能力・技術：コミュニケーションとプログラミングの大項目からの抜粋

コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションプログラムやサービスのメリットをコミュニティに宣伝する 公園・レクリエーションの価値と利点に関する教育を提供する（例：スタッフ、公衆、利害関係者、政治家など） 利用規約に関する一般の意見を収集する（例：公聴会、フォーカスグループ、調査への対応） 組織のビジョンと使命をスタッフや関係者に伝える 外部のグループ、委員会、諮問委員会、機関、評議会と協力する マーケティングとブランディングを通じて組織を周知する 外部の地域組織（例：リーグ、協会、クラブ、非営利団体、学区、信仰に基づく組織）との関係づくりをする
プログラミング
<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションプログラムを実施監督する さまざまな対象者に合わせたプログラムを開発する能力 リーグ、プログラム、施設のスケジュールを作成する能力 参加者の満足度、プログラムの成果を評価する技術 利用可能な資源（場所、人員配置、供給、安全）に基づいて、必要に応じてプログラミングを調整する能力 グループおよび個々の参加者のアセスメントをする技術・能力 プログラムとイベントの内容を計画する能力 プログラムをファシリテートするリーダーシップ

またレクリエーション活動を活動目的に沿った効果が出るようにファシリテートするリーダーシップ能力が挙げられている。

(3) CARTE におけるレクリエーション支援者の資質・能力・技術

CARTE が公開している資料からレクリエーション支援者の資質・能力・技術に関する記述を調査・分析した。レクリエーションセラピーに特化した CARTE のスタンダード²¹⁾ は非常に綿密で全 117 項目あった。それらは大まかに、セラピューティックレクリエーション概論、アセスメント、プログラミング、活動実施・ファシリテーションスキル、アウトカム評価、マネジメント、そして生理学及び精神医学の基礎の 9 つの大項目が網羅されている。概論には APIE プロセスの概念や

TR サービス提供モデル、フロー理論等の基礎理論、倫理に関する基礎、エビデンスに基づいた実践 (EBP) が主なものとして挙げられる。アセスメントでは、心理測定特性の知識や各種レジャー尺度の知識が求められる他、各種機能評価アセスメントを実施できる能力も求められる。プログラミングではアセスメントで得た情報を基にした計画を立てる能力に加え、退院後の地域移行を円滑に進める計画を立てる能力も求められる。また、活動分析や課題分析も必須技術である。活動実施においてはリーダーシップに加え、活動中の出来事や参加者の調子に合わせたプログラムの調整能力も求められる。また、リーダーシップ及び活動調整を有効に行うための口頭及び筆記コミュニケーション能力が求められる。

(4) CTRS におけるレクリエーション支援者の資質・能力・技術

NCTRC が CTRS の資格に関して公開している資料からレクリエーション支援者の資質・能力・技術に関する記述を調査・分析した。NCTRC の公開する Job Analysis 報告²²⁾ は、レクリエーションセラピストが日常的に行っている仕事を分析したもので、この報告書における言及が特にレクリエーション支援者に求められる資質・能力・技術に近いと考えられる。Job Analysis 報告には CTRS 職務領域 (10 領域・69 項目) と CTRS 専門知識領域 (6 領域、57 項目) が示されていた。具体的な内容の例として、支援対象者とのセラピーを施すうえで有効な関係性を構築・継続させること、行動変容に関する知識、倫理、異文化適応力などが特記される。上記の CARTE スタンダードで既出の APIE の内容に加え、特にセラピューティックレクリエーションを進める上でのレクリエーション支援対象者との関係づくりや、専門性を高め続ける姿勢が強調されている。

(5) 事例研究：Northwest Missouri State University

事例調査として、Northwest Missouri State University (NWMSU) のレクリエーション専攻²³⁾ について調査・分析した (調査2)。NWMSU のレクリエーション専攻には3つの専門領域があった。レクリエーション・公園マネジメント、企業

レクリエーション・ウェルネス、そしてセラピューティックレクリエーションである。専門領域にかかわらず、レクリエーション専攻のカリキュラムには以下の必修科目が配置されている。

- Foundation of Recreation (レクリエーションの基礎)
- Recreation Programming (レクリエーションプログラミング)
- Leisure Services for Special Population (多様な対象者へのレジャー支援)
- Recreation Operations Management (レクリエーション操業マネジメント)
- Assessment and Evaluation in Sport and Recreation (スポーツ・レクリエーションにおけるアセスメントと評価)
- Techniques of Recreation Leadership (レクリエーションリーダーシップの技術)
- Administration of Recreation (レクリエーションの管理)

また、選択科目として、Group Dynamics (グループダイナミクス)、Adapted PE (アダプテッド体育)、Leisure and Aging (レジャーと高齢化)、Grantsmanship (補助金申請書の書き方) 等が配置されている。

コア科目のシラバスに基づいてレクリエーション指導者の資質に関する記述を調査・分析した。主なものとしては、様々な障害や性自認を含めた対象者の多様性の理解、対象者に合わせた質の高いレクリエーションプログラムの企画をする能力、プログラム企画のプロセス (例えば参加者のニーズの特定、目標と目的の設定、アクティビティ分析、年齢に適合した活動であるか確認、等)、プログラムの効果測定のための評価法、プログラム実践での明確な指示の出し方、リーダーとしての自分の長所と短所の理解、様々なリーダーシップの方法・技術、ファシリテーション技術、地域におけるレクリエーション資源の把握が看取された。

Northwest Missouri State University のレクリエーション専攻の教員を対象に、レクリエーション支援者に必要な資質や能力・技術についてインタビュー調査を実施した。対象教員によれば、レクリエーション支援者に必要な資質、能力、技術は COAPRT が示しているスタンダードの大きな枠

組みのもと、地域に根付いた職業的ニーズを踏まえたものであるという。具体的には、地域の—Northwest Missouri State University の場合であればアメリカ中西部の—レクリエーション産業における様々な職業のジョブディスクリプション（職務記述書）と呼ばれる職務を遂行する上で必要な能力や技術を参考にしたり、地域のレクリエーション産業の代表者を集めたアドバイザー委員会を作り、現場の意見を聴取しているという。なかでも中西部のレクリエーション産業は地域レクリエーションセンターや環境保全団体、公園マネジメントの職業が多く、Northwest Missouri State University で教えられている授業の内容はそれらの特性を踏まえたものであると指摘する。例えば、レクリエーション活動のファシリテーション技術や対立解決法（コンフリクトレゾリューション）、基礎的な施設管理に関する知識等がそれにあた

る。また、多様性の理解はセラピューティックレクリエーション以外のレクリエーション産業に就職したとしても非常に重要であり、各種障がいの紹介、多様な性自認の紹介、主となる宗教等の紹介を通して物事の見方が一通りではないことを学生に伝えていると指摘する。スタンダードな枠組みを基盤としつつ、地域に根付いた職業的ニーズを踏まえたカリキュラム構成になっている点は特筆される。

5. 課程認定内容・カリキュラムの質の保証

COAPRT や CARTE で定められている認定制度における課程認定にむけた必要事項について、表3にCOAPRTのスタンダード⁸⁾、表4にCARTEスタンダード²⁴⁾を示した。COAPRTスタンダードでは認定課程のある大学自体が認定されているか、ミッションステートメントがあるか、課程のある

表3 COAPAT 認定要件（主なものの抜粋）

1.0 適格基準	<ul style="list-style-type: none"> • 大学がCHEAのアクレディテーションをもっているか • レクリエーションが学位プログラムとして大学に認められているか • 最低人員2フルタイム+1FTE
2.0 ミッション、ビジョン、価値観、そして計画	<ul style="list-style-type: none"> • ミッション、ビジョンが大学及び、公園レクの価値観に沿っているか • カリキュラム開発が切れ目なく行われているか
3.0 運営・管理	<ul style="list-style-type: none"> • レクリエーション学科長に、学科がそのミッション、ビジョンを達成するために十分な権限及び資源へのアクセスがあるか • 学科内の教員がレクリエーション学科のポリシー設立に参加しているか • 現場のプロフェッショナルにカリキュラム開発をコンサルティングしているか
4.0 教員	<ul style="list-style-type: none"> • 教員研修が、プログラム全体としてのミッションを達成するために十分に行われている • 教員採用を戦略的に行い、プログラム内の多様性（教育背景、性別、人種、年齢等）
5.0 学生	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムへの学生からの意見を聞く正式で継続的なプロセスがある • 学生へのアカデミック相談（卒業までのナビゲーション）及びキャリア相談（就職に関するナビゲーション）がアクセス可能である • 学生が学会やプロフェッショナルの会合に参加し、プレゼンテーションをしたり運営に関わったりする機会がある
6.0 教育資源	<ul style="list-style-type: none"> • 教員のオフィスが学生にアクセス可能などところにある（相談が可能か） • 教員のミーティングや学生団体に使えるミーティングスペースがあるか • 教室、ラボ、その他ティーチングに必要な場所が確保されているか • 障害のある学生に対応できる証明（ADA）例えば教員オフィスや教室へのアクセスが車いすで可能か等 • 図書館の資源はミッションを達成するために十分であるか

表4 COAPAT 認定要件 (主なものの抜粋)

I. レクリエーションセラピープログラムを抱えている大学に関するスタンダード	
<ul style="list-style-type: none"> • 米国の教育庁認められている高等教育機関、もしくは海外における同等の高等教育機関でなければならない。 • 複数の教育団体がコンソーシアムとして認定を受けることも可能である。 	
II. 教育目標に関するスタンダード	
<ul style="list-style-type: none"> • 認定を受けるセラピューティックレクリエーション教育プログラムの教育目標が明確に示されていないと認められない。それらは各ステークホルダー（学生、卒業生、教員、雇用者、医師、他のヘルスケア専門家、そして公衆等）の意見を集約したものでなければならない。また、教育プログラム目標や学習項目はプログラム企画、実施、評価を含んでいなければならない。 • 教育目標や学習項目は定期的に評価しなければならない。アドバイザー委員会（最低年一回の開催）委員との会合によって適切な教育目標と学習項目に改訂していくことが求められる。 • 教育目標や学習項目に関連して、最低限求められる能力水準に関する記述がされなければならない。 	
III. 教育資源に関するスタンダード	
<ul style="list-style-type: none"> • 教育プログラムを運営するために必要な教育資源が十分にあることが証明されなければならない。例：教員、事務職員、カリキュラム、資金、教室、ラボ、教職員の研修。 • 人事：一般教員の中で教育プログラムの運営を執り行うプログラムディレクターとインターンシップ指導を行う臨床インストラクターを任命する。 • カリキュラムが教育目標と学習項目を達成することができるように設定されている。授業、ラボ、臨床経験を学生が段階的に習得できるように設定されている必要があることに加え、コース概要・コース目標・評価方法・トピックアウトライン等が明確に記述されたシラバスに基づいて教えられなければならない。 	
IV. 学生と卒業評価	
<ul style="list-style-type: none"> • 学生の評価は定期的に行われ、学生の熟達度を詳細に記録しなければならない • アウトカムの評価例：CTRS 試験の合格率、卒業率、卒業生の満足度、雇用者満足度、就職率等によってアウトカムとみなしてもよい。 • アウトカム指標の結果とその解釈、そしてそれに基づく対策計画は定期的に CARTE に報告されなければならない。 	
V. 公正な慣行	
<ul style="list-style-type: none"> • 課程認定の状態（継続して認定されているか）、団体の連絡先、入学選考ポリシー及び実践、卒業単位、学費等を学生及び公衆に明示すること。 • 教員採用や学生の選考は非差別の原則で行われなければならない。 	

学科の管理体制は十分か、教員の資質能力が十分か、学生支援は十分か、そして教育資源は十分かという項目が網羅されている。一方、CARTE スタンダードでは、課程のある大学に関するスタンダード、教育目標に関するスタンダード、教育資源に関するスタンダード、学生評価、そして公正な慣行について定められている。

両者のスタンダードを比較すると、多少の違いはみられるものの、課程のある大学の信頼性、教員の資質能力（研修も含む）が共通点として挙げられる。双方の相違点としては、COAPRT は学生への支援に焦点を当てている点、CARTE は教育目標の達成、つまりは学生の習熟度に焦点を当

てている点が挙げられる。

6. 考察及び今後の課題

本稿では、米国の COAPRT や CARTE に示されているレクリエーション専門家の養成課程及び CPRP や CTRS 資格に関するカリキュラムの構成と内容に関して、レクリエーション支援者の資質・能力・技術という点から比較分析し、その特徴と傾向について検討してきた。そこで、ここでは、それらの特徴を整理しつつ、日本のレクリエーション教育のカリキュラム構成及び内容に関する課題について検討してみたい。

まず、カリキュラム構成上の視点からみると、

COAPRT では、「学習アウトカム」に基づき公園・レクリエーション職域で求められる大枠を示し、CARTE では「コンテンツ基準」²⁵⁾に基づきレクリエーションセラピストとして求められる資質・能力・技術を細かく示していた。

まず「学習アウトカム」の概念は日本において全く新しいものというわけではなく、すでに「学習アウトカム」が育成すべき人材像を達成するための有効な方法として知られている²⁶⁾。しかしながら、米国のなかでも公園・レクリエーションの専門家の育成支援の場合は、前述したように専門家の活躍の場が非常に多様であり、何を教えるかということよりもどのようなことができるようになったかという学習アウトカムに基づくカリキュラム構成が採用されてきた点に特徴があるといえよう。

また「コンテンツ基準」に関しては、医療現場で働くことも多いレクリエーションセラピストは医療従事者育成者の責任を考える上でも、必ず教えなければならない事項が相対的に多く、コンテンツ基準が明確であった。日本の医学教育モデル・コア・カリキュラム²⁾の課程認定においてコンテンツ基準を採用していることは、同一の流れのなかにあるものといえよう。

これらの現状を踏まえると、今後、日本のレクリエーション専門家育成の課程認定制度を検討する場合、どのような人材を育成したいのか、その活動の場や環境の特性を勘案しつつ「学習アウトカム」と「コンテンツ基準」の視点を踏まえてカリキュラム構造を検討していく必要がある。現在、こころの元気づくり、つまり活動中に参加者の楽しみを高めるための介入をすることが支援者に求められる一方、レクリエーション支援者は地域のレクリエーションイベントでの活動のみならず、高齢者施設や児童施設などの多様な場所で活躍をしている。その点を勘案すると、「学習アウトカム」によるある一定の枠組みを示した上で、多様なレクリエーション支援場所で同様に必要になる基礎的な項目を「コンテンツ基準」にのっとり整備するというハイブリッドな方法も考えられよう。

明らかになった米国のカリキュラム作りの特徴は、レクリエーション支援現場の要請に応じると

いうことであった。それに基づいて日本の現状を考えると、マネジメントやファシリテーションが今後の資質・能力の項目に設定されることが期待される。

まずマネジメントという点からみると、CPRP 資格で求められる能力は多くがレクリエーションマネジメントに関するものであった。それは、その資格を持つ者が就くと想定されている職業が、公園・レクリエーションの管理運営、およびそれに関するビジネスであるからであった。一方、現在の日本のレクリエーション支援者資格はその資格が職業に直結するものではなく、ボランティアに依存する指導者制度となってきたこと、対人的な支援を想定した養成カリキュラム構造となってきたこと等から、マネジメントに関するカリキュラムは脆弱であったといえよう。しかしながら、昨今の総合型地域スポーツクラブ等の運営者等でプログラム管理運営をする者も増えており、今後、ますますマネジメント能力の向上に関する内容の重要性が高まってくるものと考えられる。

次にファシリテーションに関して、CPRP におけるレクリエーション活動運営に関する記述には、支援対象者のニーズアセスメントやレクリエーション活動のファシリテーション技術がみられた。リーダーシップにかかわる技術及び知識、特にファシリテーション技術の必要性は日本のレクリエーション専門家の間でもよく知られるようになっており²⁷⁾²⁸⁾、その重要性はさらに高まっているといえる。ファシリテーションの考え方と方法論をいかにカリキュラム化するのか、検討する必要がある。

最後にカリキュラムで求められる資質・能力のなかでも支援対象者の理解と関係づくりについてふれておきたい。現在の日本におけるレクリエーション支援者育成カリキュラムでは、確かに対象者とのコミュニケーションの重要性やアイスブレイキング等を通じたコミュニケーションの促進の内容が含まれているが、真に対象者のことを理解し、プロフェッショナルとして対象者に向き合うための方法論が脆弱であることが懸念される。日本におけるレクリエーション支援者の目指す楽しさを通じたこころの元気づくりの達成のためには、単にコミュニケーションの促進だけではなく

対象者の全人的な理解が不可欠である。米国のCTRS資格ではプロフェッショナルとしての支援対象者との関係づくりの方法や行動指針、またどのように言動を制限し関係の境界線を築くかといった方法が内容として組み込まれていた。また、APIEプロセスにおけるアセスメント法を通して全人的な対象者の理解の方法論が確立していた。現在の日本における福祉レクリエーションの資格はCTRSの資格を参考に作られており²⁹⁾、APIEプロセスを含めすでに多くの内容が福祉レクリエーション・ワーカーのカリキュラムに盛り込まれている³⁰⁾が、今後、さらに対象者の理解に関する知識や技術、対象者との関係構築に関する内容の精査と追加導入について検討する必要があるであろう。

引用文献

- 1) 一般社団法人日本技術者教育認定機構。JABEE. <https://jabee.org/> (2021年6月25日現在)
- 2) モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会 / モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会, 医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版, モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会 / モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会発行, 2016
- 3) 文部科学省, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版) の用語修正箇所一覧 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/12/26/1387150_01_1.pdf (2021年5月6日現在)
- 4) 公益財団法人日本体育協会, 平成27年度コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成事業 報告書, 公益財団法人日本体育協会, 1-89, 2016
- 5) 日本レクリエーション協会ホームページ <https://shikaku.recreation.or.jp/> (2021年5月6日現在)
- 6) 日本レクリエーション協会公認 課程認定校データベース <https://school.recreation.jp/schoolList.php> (2021年5月6日現在)
- 7) 高橋和敏・今村義正. 余暇の時代: データとグラフで見る社会体育. 東海大学出版会, 1989
- 8) Council on Accreditation of Parks, Recreation, Tourism and Related Professionals. Learning outcomes standards and assessment. Retrieved from: <https://accreditationcouncil.org/Portals/0/Documents/Standards/2020-09-COAPRT%20Standards.pdf?ver=2020-09-16-165324-807> (2021年6月25日現在)
- 9) National Recreation and Park Association. Choosing a career in parks and recreation. <https://www.nrpa.org/careers-education/careers/choosing-a-career-in-parks-and-recreation/> (2021年6月25日現在)
- 10) Council on Accreditation of Parks, Recreation, Tourism and Related Professionals. COAPRT website. Retrieved from: <https://accreditationcouncil.org/> (2021年6月25日現在)
- 11) Committee on Accreditation of Recreational Therapy Education. CARTE website. Retrieved from: <https://www.caahep.org/About-CAAHEP/Committees-on-Accreditation/Recreational-Therapy.aspx> (2021年6月25日現在)
- 12) National Recreation and Park Association. Certified Park and Recreation Professional (CPRP) Certification. Retrieved from: <https://www.nrpa.org/certification/CPRP/> (2021年6月25日現在)
- 13) National Council for Therapeutic Recreation Certification. Certified Therapeutic Recreation Specialist (CTRS). Retrieved from: <https://www.nctrc.org/> (2021年6月25日現在)
- 14) Tylor Tapps and Mary Wells, Introduction to recreation and leisure (3rd ed.), Human Kinetics, Illinois, 2018
- 15) Terry Long and Terry Robertson, Foundations of therapeutic recreation. Human Kinetics, Illinois, 2020
- 16) Rodney Dieser, History of therapeutic recreation. (In Terry Long and Terry Robertson Eds., Foundations of therapeutic recreation (2nd ed.). Human Kinetics, Illinois, 15-32, 2020
- 17) Betty Van der Smissen, Recreation and parks: The profession. Human Kinetics, Illinois, 2005
- 18) National Council for Therapeutic Recreation Certification. About NCTRC. <https://www.nctrc.org/>

- org/about-nctrc/ (2021年6月25日現在)
- 19) National Council for Therapeutic Recreation Certification. NCTRC Job Analysis. <https://www.nctrc.org/about-certification/national-job-analysis/> (2021年6月25日現在)
- 20) National Recreation and Park Association. Certified Park and Recreation Professional Examination Candidate Handbook, 2020
- 21) Commission on Accreditation of Allied Health Education Programs. (2017). Recreational Therapy Curriculum Map. [https://www.caahep.org/getattachment/About-CAAHEP/Committees-on-Accreditation/Recreational-Therapy/2017-Standards-CURRICULUM-MAP-11-9-17-\(1\).doc.aspx](https://www.caahep.org/getattachment/About-CAAHEP/Committees-on-Accreditation/Recreational-Therapy/2017-Standards-CURRICULUM-MAP-11-9-17-(1).doc.aspx) (2021年6月25日現在)
- 22) National Council for Therapeutic Recreation Certification. 2014 CTRS job analysis report, 2014
- 23) Northwest Missouri State University. Major in Recreation at Northwest Missouri State University. <https://www.nwmissouri.edu/academics/undergraduate/majors/recreation.htm> (2020年10月25日現在)
- 24) Commission on Accreditation of Allied Health Education Programs. Standards and Guidelines for the Accreditation of Educational Programs in Recreational Therapy, 2017
- 25) UNESCO International Bureau of Education. (2018). Content Standards. <http://www.ibe.unesco.org/en/glossary-curriculum-terminology/c/content-standards>
- 26) 川嶋太津夫, ラーニング・アウトカムズを重視した大学教育改革の国際的動向と我が国への示唆, 名古屋高等教育研究 8: 173-91, 2008
- 27) 森田清美・小田幹雄, レクリエーション教育担当者の実態に関する調査—北海道・東北ブロックを中心に—, 自由時間研究 33 (1): 64-78, 2008
- 28) 佐藤陽子, 高齢障害者のレクリエーション活動, 理学療法科学 19 (3): 189-191, 2004
- 29) Hiroko Murray, Yoshifumi Tajima, Tadaaki Wakui, Takashi Wakano, and Shinichi Nagata, Fukushi (social welfare) recreation in Japan, Therapeutic Recreation Journal 53 (3): 268-273, 2019
- 30) 趙廷仁・滝口真, 高齢者福祉施設におけるレクリエーション支援に関する日韓比較考察, 西九州大学健康福祉学部紀要 50: 9-20, 2021